

令和5年度 東京都立井草高等学校 学校経営報告

校長 粕谷 真由美

令和5年度はスクール・ミッション、スクール・ポリシーを基盤に4項目の中期的目標を掲げ取組を進めた。

【中期的目標】

- (1) 高い志と自主・自律の精神を養う。
- (2) 自らの進路を切り開くことができる人材を育成する。
- (3) 国際社会で活躍する人材を育成する。
- (4) 教育力向上を図るため、不断に挑戦する教職員集団を創る。

【令和5年度 具体的な取組状況】

具体的な数値目標と達成状況は、以下のとおりである。

今年度の具体的な数値目標			
①学習指導			
(ア)	生徒による授業評価、学習への意欲喚起に関する肯定的評価	90%以上	92%
(イ)	家庭学習の定着（週10時間以上）	1学年70%以上 2学年75%以上 3学年80%以上	38% 44% 99%
(ウ)	第1、2学年観点別評価の実施	100%	100%
(エ)	教科会の実施	年間12回以上	15回
(オ)	国公立大学や難関私立大等入試問題分析の実施教科	6教科以上	5教科
②生活指導			
(ア)	学校評価アンケート、生徒による特別活動に関する肯定的評価	90%以上	80.5%
(ウ)	学校事故発生件数	0件	0件
(エ)	部活動加入率	90%以上	77.5%
(オ)	部活動ガイドライン遵守	100%	100%
(カ)	生徒情報を共有し指導に生かす校内委員会の実施	年間10回以上	15回
③進路指導			
(ア)	進路決定率	80%以上	62%
(イ)	大学進学率	95%以上	61%
(ウ)	共通テスト受験者	90%以上	91%
(エ)	国公立大学現役合格者	11名以上	7名
(オ)	難関私立大学（早大・慶大・上智大・東理大）現役合格者	21名以上	33名
(カ)	GMARCH（学習院大・明大・青学大・立大・中大・法大）現役合格者	130名以上	167名
(キ)	授業外個別指導の実施	教員一人当たり5名	5名

④国際理解教育			
(ア)	次世代リーダー育成道場等、海外での学習機会への応募者	56名以上	126名
(イ)	国際交流事業	年間3回実施	4回
(ウ)	英語検定合格者	1級1名 準1級10名 2級100名	1級0名 準1級17名 2級156名
⑤学校経営			
(ア)	学校見学会・説明会参加者数(延べ数) 授業公開参加者数(延べ数)	2,000名以上 1,000名以上	2,281名 1,761名
(イ)	体罰等不適切な指導、性的ハラスメント等服務事故発生件数	0件	0件
(ウ)	整理・整頓の日年間(延べ数)	14回	15回
(エ)	夏季休暇の完全取得 年次有給休暇の取得	全員 年10日以上	100% 75%
(オ)	すべての教職員が完全休養する学校閉庁日	5日以上	5日
(カ)	経営企画室職員、超過勤務(月平均)	10時間以下	2.5時間

【令和6年度に向けて】

(1) 学習指導について

令和4年度に引き続き、全ての教員が、指導と評価の一体化による授業改善や教育活動の改善に取り組んだものの、学校評価アンケートでは、特に一人1台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びについて、十分な成果が確認できなかった。次年度は、各教科の指導の重点を踏まえ、質の高い授業の提供と個別最適な学びや協働的な学びをさらに推進するため、一人1台端末を活用した指導の工夫、生成AI研究校としての取組の発信など、適時生徒の学習状況について実態把握を行い、一人一人の志を大切に育む組織体制をさらに推進したい。また、1、2学年において家庭学習の定着が5割に満たない状況であり、自律的な学びへ向けた指導が十分とは言えない現状を踏まえ、生活習慣の改善、高い志の維持、家庭学数の定着等を継続目標とし、教科及び各分掌の実践を工夫する。

(2) 生活指導について

生徒による特別活動に関する肯定的評価が9割に届かなかったことを踏まえ、部活動加入率について数値目標を引き続き設定するとともに、同窓会、PTAとの連携、協働をさらに推進し、特別活動の充実を図る。

令和6年度は、上履き指定の廃止、ヘルメット着用推奨の指導など、より自律した姿勢を育む必要があることから、生徒代表である生徒会生徒の活動をさらに充実させ、校内美化を推進するなど、生徒の帰属意識の醸成を図る。

(3) 進路指導について

前年度、今年度と二ヵ年度にわたり授業外個別指導の実施について数値目標を設定し、全ての教員が生徒の要望に応じて積極的に個別の指導を実施することで、一人一人の生徒を支え、生徒自身が第一志望を諦めず最後まで挑戦していく雰囲気醸成した。次年度は、総合的な探究の時間の指導内容を工夫するとともに、第一志望の進路実現100%を数値目標に掲げ、次のステージへと移行する。

(4) 国際理解教育について

次年度も引き続き、海外学校間交流推進校として、国際理解教育の充実と海外修学旅行の実施を成功させることで、挑戦する生徒を応援する学校文化を醸成し、より多くの生徒が自ら挑戦できるよう、教育活動の充実を図る。なお、英語検定合格者数の数値目標は国際理解教育の項目から進路指導の項目に移し、第一志望の進路実現に資する取組として引き続き推進する。

(5) 学校経営について

令和6年度は、異動による分掌主任の交代、新規採用職員の増加が見込まれる。そのため、紀要の発行など、若手教員を中心に取組みを文字に残し、教員としての指導力向上に努める取組を継続する。また、保護者コミュニケーションシステムの導入やホームページの活用など、教育活動の内容を十分に発信することで、帰属意識の醸成と学校内外と協力した教育活動の充実を目指す。さらに、異動による企画室職員の交代、会計年度任用職員の新規配置が予定されているため、担当業務の明確化や組織内での情報共有を推進し、生徒、保護者を含む都民の期待にさらに応える学校を目指す。